

39 退院指導計画表の見直し

～早期退院支援に活かせるスクリーニング表の作成を目指して～

病院看護部 外来入所者診療室 會田人美

1. はじめに

近年、医療改革に伴い病院機能がより明確にされ、在院日数の短縮化や在宅療養への積極的移行の取り組みが急速に進められている。早く自宅に戻れるようにすることが患者の QOL を高めることにつながると考えられ、このことは適切な時期にスムーズにかつ安心して退院を迎えることを目的とした退院支援の必要性を示唆している。現在当院では入院患者を対象に『退院指導計画表』を使用しているが、十分に活用されていないのではないかと感じている。そこで、患者・家族が安心して退院できるよう効果的に退院支援に活かせる新たな様式を検討した。

2. 方法

当院病棟勤務看護師 51 名に質問紙による実態及び意向調査

3. 結果

1) 退院指導計画表の記載について

「入院時必ず記載している」が 27 名 (59%) 「記載していない」が 18 名 (39%) であった。理由として、「項目・月日が記載しにくい」「必要性を感じない」が多かった。その他自由記載としては、「対象にあっていない」「入院してすぐの記載はむずかしい」「忘れてしまう」などであった。

2) 退院指導計画表の活用について

「活用できていない」が 41 名 (90%) を占めた。理由として、「他の用紙に記載している」「目を通す機会が少ない」が多かった。その他自由記載としては、「記載方法がわからない」「内容がわかりにくい」「活用しなくても退院に向けた準備・指導ができるから」などであった。

3) 他の様式について

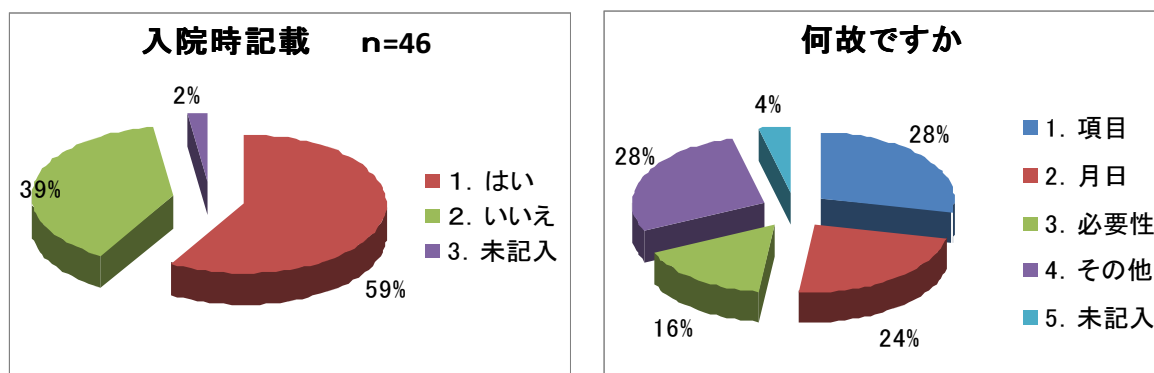
「各部門から記載(入力)でき情報共有や確認ができるシートのようなもの」「全ての患者に共通して使用できるもの」「患者・家族がどこまで習得したかわかるような表」「クリニカルパス」「標準看護計画」「アセスメントシート」などの意見があった。その他のとして、「早期退院支援とはどういうことか」という意見(質問)も寄せられた。

4. 考察

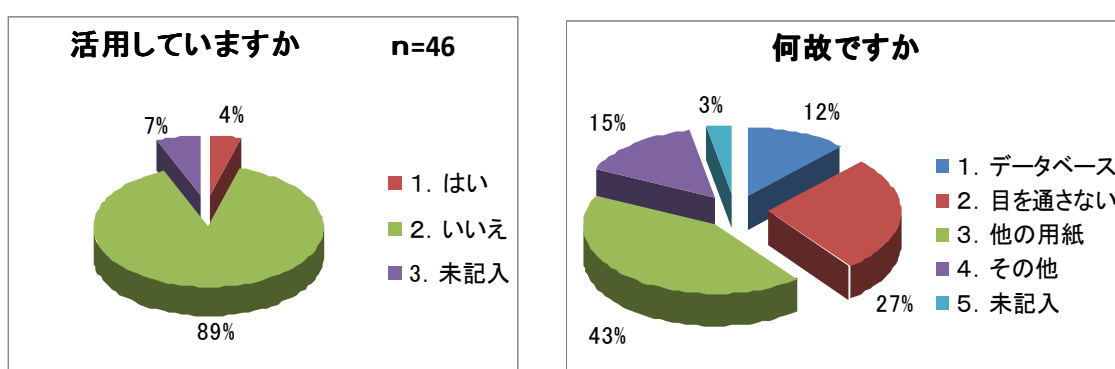
『退院指導計画表』は、90%が活用しておらずその理由として、記載のしにくさや情報不足、必要性を感じていないことから、内容や形式だけでなくその役割も検討していく必要がある。また、既存の他の用紙に記載したり「活用しなくても退院指導はできている」との意見もあり、退院指導計画表の存在自体も改めて考えていかなければならない。他の様式としては、いくつか意見が寄せられたが、一例として『スクリーニング表』を作成した。これを使用することで早期にハイリスク患者を発見でき、看護計画立案・評価・修正、そして情報の共有ができ有効であると考えられる。また、看護師の退院支援に関する意識も把握すると共に、当センターの目標でもある地域連携体制強化のため、医療相談室での入院・退院調整に看護師も介入し協働していけるようなシステムの構築が今後の課題である。

【退院指導計画表に関する調査】

1. 退院指導計画表の記載について（記載の有無及び記載できない理由）



2. 退院指導計画表の活用について（活用状況及び活用できない理由）



【スクリーニング表】(案)

スクリーニングシート

【スクリーニング項目】

- 単身である
- 介護できる家族がない
- コントロール困難な症状がある
- 退院後、医療処置が必要である
- 認知症・または問題行動がある
- 1ヶ月以内に予定外の入退院が2回以上ある
- 退院後の方向性が決まっていない

*1項目以上✓がついたら看護計画を立案する